

全 仙

ZENBUTSU
J A P A N
B U D D H I S T
F E D E R A T I O N

仏暦2566年1月
[2023年]

No.656

特集

第46回全日本仏教徒会議 山梨・身延山大会報告



全仏 656 号
CONTENTS

新年のご挨拶 3

大谷 暢裕 / 公益財団法人全日本仏教会会長
里雄 康意 / 公益財団法人全日本仏教会理事長

特集1

全日本仏教徒会議山梨・身延山大会報告 4

講演

「仏教の可能性を問う」 6

平岡聡 / 京都文教学園学園長

序論

1. 法(仏の教え)

(1) 自我の肥大化 (2) 身体性の欠如 (3) 死の隠蔽 (4) 物語の喪失 (5) 多様性の重視

2. 僧(法の実践者集団)

3. 仏(僧のリーダー的存在)

結論

特集2

第30回WFB世界仏教徒会議・バンコク大会報告 14

年賀交換 18

本会からの報告 30

- ・第6回花まつりデザイン大賞発表
- ・第37回理事会
- ・第35期第2回社会・人権審議会
- ・第35期第1回花まつりデザイン審査会
- ・第35期第1回広報委員会
- ・「救援基金」寄付者一覧(令和4年9月1日~11月30日)

新年のご挨拶

公益財団法人全日本仏教会会長 大谷 暢裕



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
はじめに、昨年突如として勃発した国家間での武力紛争においては、尊い命が犠牲になり、今なお恐怖と悲しみの中で過ごす多くの人々がおられることに、強く心を痛めております。被害を受けられたすべての方々に衷心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早く平穏な日常が取り戻されることを強く念じ上げます。

さて、未だ終息の兆しが見えない新型コロナウイルスによる感染症の脅威は、私たちの生活様式を一変させました。ウイルスという目に見えない恐怖との戦いの中で、**密**を避ける生活が常態化し、人と人が互いに距離を取り、次第に大切な家族や友人同士でさえも容易に集うことが憚られるようになりました。そして、仏教界においても、儀式の簡略化や規模の縮小等が余儀なくされ、これまで私たちが大切に相続してきた御仏事の場が急激に失われつつあります。

どのような状況の中にあっても、未来永劫、決して法灯を絶やすことのないよう、当面する諸課題を正面から受け止め、真摯に取り組みを継続することが私たち全日本仏教会に課せられた使命ではないでしょうか。

昨年、山梨県身延山久遠寺を会場に開催された第46回全日本仏教徒会議では『共に生きる尊さ』、だれも取り残さない社会の実現に向けてのテーマのもと、その課題を参加者・関係者が共有し目指すべき社会の実現に向けた確実な一歩が踏み出されました。

混迷を極める時代であるからこそ、この一歩を大切に、一人ひとりが互いを尊重し合い、心豊かに、共に生きることでできる平和な社会の実現に努めてまいりましょう。

公益財団法人全日本仏教会理事長 里雄 康意



新たな年を迎えご挨拶申し上げます。
いつの時代も世の中は、「不安定」「不確実」なものであり、私たちが目にするものとは裏腹に「不透明」感が漂っています。

今日においても、2022年2月24日、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まり、いっこうに治まる気配もなく、人々は不安と悲しみの日常を余儀なくされています。

また、世界でもかかる戦渦や気候変動、そしてコロナ禍による穀物の収穫不足等で食糧供給や輸出が不足し、併せて原油の供給不足が重なり、日常生活を送る上での必需品が軒並み高騰して、人々の生活が逼迫しています。

このような状況を見据え、昨年8月4日、京都国際会館と天台宗総本山比叡山延暦寺で開催された、比叡山宗教サミット三十五周年記念「世界宗教者平和の祈りの集い」に本会も参画し、テーマ「気候変動と宗教者の責務」について共有しました。

この「宗教サミット」を介し、作家の高史明氏が「進歩発展する繁栄の中に地獄をつくっている」と述べられた言葉を思い起こしました。

また、10月には全日本仏教会と山梨県仏教会が主催し、第46回全日本仏教徒会議山梨・身延山大会「共に生きる尊さ」誰も取り残さない社会の実現に向けて」をテーマに掲げて開催いたしました。

この世情にあって、「自利利他」の円満を願う仏教精神に立って、生きとし生けるものが共存共生する世界の実現に向け、全一仏教運動が担うべき課題として力強く取り組んでまいります。
本年も本会に対して変わらぬご指導をお願い申し上げます。

「共に生きる尊さ」

「だれも取り残さない社会の実現に向けて」



身延山久遠寺内野日総法主（左）と大谷暢裕本会会長（右）。後ろは大会関係者

令和4年10月7日と8日の2日間にわたって、山梨県の身延山久遠寺において、第46回全日本仏教徒会議 山梨・身延山大会が開催されました。久遠寺での開催は昭和30年の第3回大会以来の67年ぶりです。

今回は、新型コロナウイルス感染症の影響で1年の延期を余儀なくされた、第45回の島根大会に続いての仏教徒会議となりました。通常2年の間隔で行われるところ、1年の準備期間しかない状況での開催となりました。感染者数が減ってきたとはいえ、いまだその影響が収束したとはいえない時期だったので、対面とオンライン配信を併用して行われました。万全のコロナ対策を講ずるために来場者の人数を制限しながらでしたが、1日目の会場参加者は394名、配信の視聴者は約1200名。2日目の会場参加者は369名、視聴者は約1000名

と、結果的に多くの方に参加していただきました。短い時間のなかで準備に奔走してくださった近藤英夫会長をはじめとした山梨県仏教会の皆さま、場所を提供してくださった日蓮宗総本山身延山久遠寺さま、そしてこの日のために全国から集まってくださった皆さまと、オンラインで視聴してくださった皆さまには心よりお礼申しあげます。

さて、今大会のテーマは「共に生きる尊さ」だれも取り残さない社会の実現に向けて」。2015年に国連で採択された持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) に沿うもので、世界中で地球と人類の未来に対して強い問題意識を持ち始めた中、仏教者の役割を考える端緒のなるべく定められました。

【1日目】

そのテーマに基づいて大会は、身延山大学の講

堂を舞台として、大会実行副委員長の鈴木哲師

の開会の辞で始まりまし
た。開会式典では、山梨
県仏教会会長で大会長の
近藤英夫師によるテーマ
の説明の後、身延山久遠
寺の内野日総法主が、「サ
イレントマジョリティー
(声なき声) や、声を上
げられない人の心の叫び
をいかに汲むかが、仏教
徒にとって必要な取り組
み」と述べられました。

近藤会長を導師とした
開会法要に続いて、京都
文教学園の学園長であり、
浄土宗の僧侶でもある平
岡聡先生の講演です。「現
代における仏教の可能性
を問う」と題して、仏教
とそれを担う僧侶が、こ
れからの社会に対してど
のような役割を果たせる
のか、あるいは果たすべき
のかをお話しいただき
ました。詳細は6ページから
をお読みください。



場所を本堂に移して、次は久遠寺の内野日総法主を導師とした現代音楽法要です。「南無妙法蓮華経」を本尊とする立体曼荼羅を前に、オーケストラに乗せて日蓮聖人を称える賛歌である「オラトリオ日蓮聖人」が披露されました。これは、1981年の日蓮聖人第七百遠忌の記念事業として、黛敏郎氏が作曲、詩人の西川満氏が作詞したものから要所を抜き出し、法要形式にしたものです。堂内に響く荘厳なお題目に参加者皆が聞き入りました。



【2日目】

2日目は、本会の会長で真宗大谷派の大谷暢裕門首を導師とした記念法要で始まりまし。挨拶で会長は、だれも取り残さない社会の実現は、「思想信条や国籍、立場の違いを超えた人類共通の課題」であると述べられました。

続いて行われたパネルディスカッションは、死生学を専門とする小谷みどり氏の、この大会のために山梨県の寺院に行われたSDGsに関するアンケートの分析結果の発表から始まりまし

た。その中で小谷氏は、SDGsに対する僧侶の意識がまだまだ低いことを指摘。それに沿って元毎日新聞の記者で文芸ジャーナリストの内藤麻里子氏、日本文学を専門とするロバート・キャンベル氏、1日目に続いての平岡聡氏がそれぞれ登壇したのち、全員による討議に入りました。詳細は身延山久遠寺のYouTubeチャンネル (<https://www.youtube.com/@minobusan>) でご覧いただけます。

閉会式典では、「私たち仏教徒は、人は行いに
より尊くも卑しくもなるという釈尊の御教えを強
く受け止め、決して傍観者でいることなく今起き
ている現実を目を向け、生きとし生けるものが共
に生きられる平和な社会の実現に向けて行動し、
常に感謝の気持ちを持ち
ながら、互いを尊重し合
う社会を目指すことを誓
います」という大会宣言
を採択し、次の大阪府佛
教会へと大会旗を引き継
がれました。



記念講演

「仏教の可能性を問う」

講師 平岡聡 (京都文教学園学園長)

私は浄土宗の僧侶です。身延山、日蓮聖人の御前において、さすがに念仏の教えはないだろうし、いろいろな宗派からお集まりなので、一宗一派に囚われずに、少し大げさですけども「仏教の可能性を問う」というタイトルにさせていただきます。

まず、流れを大雑把にお伝えしておきます。先ほど「三帰依文」で仏法僧の三宝に帰依すると皆さんでお唱えしましたが、それに沿って三宝の枠組みから、仏教の可能性を考えてみようと思います。

よく仏教が批判される点に、葬式だけして現代の問題に対応していないというものがあります。それを踏まえて、現代の社会がどういう方向に進んでいくのかを私なりに抑えて、それに仏教は応えうるのかというところで「法」の話に入る。そ

してそれを実際に僧侶が実践できているのかという流れで「僧」を論じ、最後に「仏」に戻ってまとめをします。

1. 法 (仏の教え)

歴史を勉強して、過去から現在の流れを見れば、現在から未来、どういう方向に社会が進んでいるのか分かります。以下の5点がこれからの方向性になるだろうと思います。1番目に「自我の肥大化」、2番目「身体性の欠如」、3番目「死の隠蔽」、4番目「物語の喪失」、そして5番目の「多様性の重視」。これに対して仏教はどう応えるのかを見ていきます。

まず私が実感しますのは、これから社会は私たちの自我、エゴがどんどん膨らんでいく方向に進んでいくのではないかとということ。

仏教を理解するキーワードとして「苦」があります。苦にはパターンがあって、欲望と現実がズレた時に起こります。こうしたものに現実はずなっていない。これが苦です。解決するにはズレをなくせば良いですね。それには、現実を変えて欲望を満足させるか、欲望を捨てて現実を受け入れるかの2つしかない。ダイエットを例にとると、48kgが良いと思っていても現実には60kg。12kgの差がその人にとっての苦です。なくすためには48kgにすればいい。もうひとつは60kgという現実を受け入れる。このどっちかです。仏教の場合は当

然後者ですね。

一番大きな苦しみは死です。これはなんぼ頑張っても現実が変わらない。とするならば、現実を受け入れて、いつまでも生きたいという欲望を捨てるしかない。しかし、私たちが住んでいる社会は、欲望を満足させるために現実をどんどん変えている。端的なのがスマートフォン類ですね。こんな機能が付いたらいいのという欲望を満足させるために、機種が新しくなっています。

そうすると、宗教と科学は相反するようになっています。苦をなくすという点では共通しているんです。ただし、宗教の場合は欲望を捨てて現実を受け入れるのに対して、科学は逆の方向に進む。普通、私たちは「当たり前」の基準をプライマイゼロに置きます。そこから発想すると幸せを感じられませんが、基準をひとつ上げる。それが1年続いたら、今度はそこが「当たり前」になる。そうしたら、さらに高い欲望を起こして満足させていく。上がった瞬間はいいけれども、それがまたゼロになるという風に私たちの社会はなっています。

ところが、仏教の「当たり前」の基準は、一切皆苦。人生は苦、に置くので、なにもないことは幸せ以外のなものでもない。苦をなくそうと思えば簡単なんです。「当たり前」の基準を下げてほしい。けれども欲望を満足させることはお金の

なりますから、いろいろな商品が開発され、私たちは買い求める。その瞬間は満足するけど、慣れてもっと高い刺激を欲するようになる。そんな社会でいいんでしょうか。

エゴは煩惱の一種ですから、大きくなるのは仏教的には当然、悪いことになります。仏教がこれから益々必要になるというのはそういうことです。人間はいつか必ず死ぬ。でもいつまでも生きていたいと思う。お釈迦さんは、その自我を捨てて、生まれたら死ぬという事実を受け入れられた。つまり自我の否定ですね。相対化と言ってもいいかもしれません。そうすることで苦しみをなくす方向に仏教は舵を切ったんだけれども、世の中は逆の方向に進んでいく。そこに、縁起起こるといふ縁起の思想で、自分を相対化して、苦に対処するのが仏教の基本的な姿勢になります。自我が膨れ上がっていく時代に、自分を相対化し否定していく。自我の否定は無我です。無我を説く仏教は、これから益々、価値が見直されてくるのではないかと見えています。



(2) 身体性の欠如

次に「身体性の欠如」について。30年前と比べて、特にITが発達することによって、身体が失われていく方向に進んでいませんか。

養老孟司の所論を借りると『唯脳論』という考え方。人間が進んでいくと脳の働きが強くなっていく。そして身体が忘れ去られていく。それを養老さんは脳化



養老孟司『唯脳論』筑摩書房、1998

社会と呼んでいます。だから身体性の象徴みたいな死体がテレビで映ることはまずない。皆さんにも馴染みがある火葬場。あそこで人間の体を焼いているように思いますか。外から見るとホテルみたいですね。死を感じさせない工夫がなされている。脳は、体中に神経を張り巡らして身体を統御する部署です。死は、統御から完全に外れる存在ですから、脳にしてみたら見たくないんです。身体もいつかは腐ってコントロールできないですから、脳の働きが強まるほど、身体性、身体の働きを消すように働くと言う。それが養老さんの『唯脳論』。

ここで面白いのは、逆に軍隊とスポーツクラブ

では暴力が制度化されること。あれだけ言われても高校のスポーツクラブで暴力事件が絶えないのは、身体性が欠如したら困るんです。だって身体なしで戦争もスポーツもできない。だから身体を呼び起こすために暴力は制度化されているのではないか。これが養老さんの『唯脳論』で面白い点です。

それから性と暴力。これも身体性を象徴するものです。脳の働きが強くなればなるほど、規制をかけていく。それからエンバミング。もともとベトナム戦争で体の痛んだ遺体を両親に届けるのが酷いということで、生きているかのように処理をするのをエンバミングと言います。これを普通の人もやるようになった。臨床心理学者の河合隼雄先生が、せっかく死んでいるのにどうして生きているような化粧をするんだという言い方をされています。脳化が進めば進むほどそんな所でも死を隠蔽する。

それに対して仏教はどう応えるか。いろいろな宗派の方がいらっしゃいますが、それぞれ修行があります。修行は身体あってこそですから、ここが強みになると思っています。身体性がなくなる方向に行けば行くほど、いやいや心と身体全体で人間ですと。

例えば「わかる」と「かわる」。どちらかと言

うと「わかる」↓「かわる」が強調されるんですね。やるのが本当に理解できたなら、その人の行動が変わるといふ方向。ところが修行は逆で、行動を変えることによって、あることを理解していく。あまりに「わかる」↓「かわる」ばかりが強調されると、行動を変えることによって考え方が変わっていくこともありますよと言いたい。そういう意味で、身体性が欠如する方向に社会が進むのであれば、仏教は修行を前面に出して、身体から入る方向を伝える必要もあるのではないかと思います。

(3) 死の隠蔽

3点目は、2点目とセットで、死に蓋をしていく方向に進むだろうと思います。

ここで、人称別の死というものを考えてみたいと思います。一人称の死は、「私の死」で経験した時にはもういなくなっていますので、あまり意味がない。三人称の死は「どこか誰かの死」。今、ウクライナでのそれはそれで心は痛むけれど、私たちにとってはそう意味を持たない死。そして一番意味を持つのが二人称の死、つまり「あなたの死」。もっと言うと私の大切な人の死。これを頭に入れて、葬式を考えたいと思います。

葬式もだんだん簡略化されていますよね。コロナ禍で密を避ける為に人数が少なくなってきました。この大会の事務局長の長澤上人の『今、先祖観を問う』という本では、直葬とか散骨とか、最近ではゆうパックで骨を送る、そんな時代になっていくと。死に重みがなくなっています。



長澤宏昌『今、先祖観を問う—埋葬の歴史と現代社会—』石文社、2016

葬式仏教について、批判的に言われることもありますが、そう捉える必要もないと思います。仏教はもちろん葬式を説くけれども、中心思想ではない。だけど、方便としては極めて優れた儀礼だと思えます。方便ってなんでしょか。セツトになるのが真実です。嘘も方便と言いますけど、単なる嘘は方便ではない。方便が方便であるためには、必ず真実と繋がっていないならならぬことを念頭に置いた時に、葬式仏教と揶揄される場合は、二人称の死で終わっていないでしょうか。葬式は方便、入り口ですから、そこから一人称の死までちゃんと導いているかどうか。これをやらなかったら、単なる誰かのための葬式で、それやる人は拝み屋です。大事な人の死を通して、あなたも死ぬよ、あなた死ぬまでどう生きるの、というところまで話が行って初めて葬式は意味を持つ。

二人称の死が残されたものには一番効くんです。説法しない人が最近いるらしい。大事な人を失って一番沁みる時なのに。ということ、方便は真実と結びついて方便ですから、二人称の死から一人称の死まで行けるかがポイントだと思います。

(4) 物語の喪失

次に「物語の喪失」。哲学者、中村雄二郎が知を「神話の知」と「科学の知」に分けています。科学を無視して今の社会は成り立たない。これはこれで素晴らしい貢献をしていますが、科学で証明されないことは否定される方向にも進んでいきます。けれども神話の知を無視すると、精神的窒息状態に陥るのではないかと思います。

河合隼雄の著書から例を挙げましょう。1985年、JALが御巣鷹山に落ちました。そこで命を落とされた方の家族は、なんで私の大事な人が1億分の500人の確率で死ななければならなかったのかと思うでしょう。その時に科学の知は完璧に説明ができる。出血多量。これで終わりです。遺族の方、なんや出血多量か、とはならんでしょ。そこでやはり神話の知、大事な人の死を腹に収める物語が要る。それは科学の知では全く手がかりなしです。

例をもうひとつ。友人の僧侶がいます。ある家に赤ちゃんが産まれて、すぐに亡くなった。お母さんはもう半狂乱です。でも初七日、二十七日と法要をしていくに従って落ち着いてきた。ある時、友人にそのお母さんはこう言われたそうです。「極楽はないと困る。私の子供がそこに往生してないと困る。私も死んだらそこに行けると困るんや」と。科学的には証明できないけれど、不条理なのに世の中で暮らすにあたって、得体の知れないものに対抗していくためには、神話の知も使わざるを得ないと思います。

ここでアニミズムの話をしませう。万物に魂が宿っているという信仰です。もう一回これを見直す必要がある。明日SDGsの話も出ますけれども、環境問題は非常に大きなテーマです。アニミズムの視点を入れずに、科学の知だけだと、スカスカの人生観しか出てこない。例えば、子供が人形の手や足をちぎったなんて言いますか。「そんなんしたらお人形さん痛がるで」。皆さん、そういう教育をされたと思う。科学の知で言ったら、「人形には神経も脳もないんだよ。痛くも痒くもないんだよ」と。どっちが情緒豊かに育つかは一目瞭然だと思えます。

もうひとつ、先輩のお寺の話。入れ歯、これ困るんですけど。体の一部だったから、さすがに

生ゴミと一緒に捨てられない。仕方なしにタンクにしまったままにされる。ある人が和尚さんに、なんとかありませんかと。じゃあ供養しましょうと呼びかけたら、まあ集まった。供養して中の魂を抜いてモノ化して処分する。これは、実に日本仏教的な習慣なのではないかと思えます。これもアニミズムの一種です。そういったところに神話の知が働き出すきっかけがあると思えます。

科学にも物語的要素はあって、イスラエルの歴史学者ハラリという方がいる。「ホモサピエンス全史」という本を書かれていて、宗教科学いろいろ用いて人間の歴史を紐解いている。彼に言わせると、キーワードは「虚構」です。物理学は宇宙の根本を形成する要素の物語。化学は原子と分子とそれらの相互作用の物語という風に。人間は言葉を獲得して想像力を持ち得た。よって伝説神話宗教だけでなく、国家国民人権平等自由、これらも虚構なんだ。人生について彼は、純粋な科学的視点から言えば、なんの意味もない。人類はやみくもに展開する進化の所産である。大事なのは、人間は意味がないことに耐えられない動物のことのようです。私も人生に客観的な意味はないと思えます。一方で人



ユヴァル・ノア・ハラリ/楽田裕之訳『サピエンス全史 文明の構造と人類の幸福』河出書房新社、2016

間は意味がないと自分を納得させられない。だからこそ、納得させる物語を、それぞれが作っていく必要がある。その際、神話の知は欠かせないと思えます。

仏典は物語の宝庫ですから、科学が進むほど、神話の知を私たちは説いていく必要があるのではないかと考えております。

(5) 多様性の重視

それから、これは必ずしもマイナスではないですが、多様性。いろいろな人がいろいろな価値を持つて生きる社会になっていきますけれども、これについても仏教は話題を提供することができます。

まず教相判釈。仏の教えはたくさんありますから、自分なりに八万四千の法門を価値づける。お釈迦さんたちもそれぞれ教判を作られた。これは、お釈迦さんが亡くなって200年後ぐらいからもう始まっています。経典を読むと、矛盾した表現が出てくるんです。一切は苦であるところから言っているのに、こっちは人生は苦もあり楽もあり、苦でなく楽でないものもあると。どっちが正しいのが問題になってくる。お釈迦さんは意味のないことは絶対言わない。それぞれになにか意味がある。今、AとBとします。Aを本当に言い



たかったことと位置づけると、Bは特別な意味を込めておっしゃったとするわけです。別の人たちはBこそが直説で、Aが秘密の意味を込めて説かれた教えだと。仏教界としてどっちが正当説か決めない。キリスト教は公会議を開いてハッキリさせる。そして異端という烙印を押されたら消されます。仏教は横に並んでいくんですね。勿論、論争はしますよ。でもこれが多様化の始まりではなかったかと。だから私の言葉では仏教は横の宗教で、キリスト教は縦の宗教だと押さえます。

ここで『法華玄義』に華嚴の素晴らしい教えがあるので紹介しておきます。全てがそのままひとつであり、ひとつがそのまま全てである。ひとつが一切の中に入り込んで、一切がひとつの中に入りたい。

教相信仰について、ある方が、律を放棄したところと根が一緒なんじゃないかとおっしゃっています。いわゆる小乗仏教だったら戒律という共通基盤を守ることが僧侶の資格が担保されていた。ところが日本仏教はそれをガラガラポンしちゃった。そうしたら僧侶の養成は宗派に任せられるわけです。各宗派はオリジナリティを出すために、宗祖にアイデンティティを求めるようになる。だから否定できなくなる。奉る存在としての側面が強すぎて乗り越える努力ができていない。

こういった問題に対してどう対応していくのか私見を述べます。一番大きいのは「聖性」をどう担保するか。せい性、ひじり性。聞きなれない言葉ですが、松濤誠達という仏教研究者によると、お釈迦さんは悟ってから修行しています。聖性を常に獲得して、失わないためであったのではないかと言っています。例えば、お布施は不浄なものに見なされていました。受け取ると毒が回る。それを不活性化する、あるいは浄化するために修行が必要だった。つまり修行によって聖性が担保されて、不浄なものを受け取ってもそれに毒されない。聖性についてはもう一回ちゃんと考えない

した。北朝鮮がいました。戦争しない状態は素晴らしいけど、もう一歩進めてお互いにならないところを補い合う関係が構築できたら、よりよいですね。単に価値観の違う人が住んでいるだけでなくて、生かし合っている関係。そういう視点から多様性を考えてみたいと思えます。

2. 僧（法の実践者集団）

ここまで言ったように、「法」に関してはこれからの社会を考える上でヒントがたくさんある。問題は「僧」です。それを現代社会に活かせるように、私たち自身が努力しているかが問われるんですね。今からちょっと荒唐無稽なこと言います。私も出家者ですから、上から目線ではないので勘弁して聞いてください。

まず日本仏教の問題点のひとつは、寺請制度、檀家制度と世襲制度。これは安定的に出家者を輩出するメリットもあります。だけど、志のない者を輩出する装置にもなり得ている。

もうひとつは戒律の欠如です。もちろん大乘戒はあるんだけど、いわゆる小乗的な二百五十戒、正確には律を放棄したために今のようになっている部分もあります。もうひとつ、教相信仰。確かに、それぞれお祖

り込む。普通、前者は分かりやすいでしょう。これだと個が全体に埋没してしまって個性が発揮しれないと思われるけれども、逆がある。一切がそのまま一なんだね。

野球を例に出すと、9人集まらないとチームはできません。そういう意味では個人は9の中に入り込みます。でも一番バッターを私が任せられたとして、私がいなかったチームが成り立ちません。全体を私が代表している側面もあるわけです。それを元に多様性を考えると面白いと思えます。

それから仏教の素晴らしいところは曼荼羅です。真言宗系のだと中央には大日如来が来るでしょう。浄土宗の智光曼荼羅、観経曼荼羅では、阿弥陀仏が真ん中で他の仏や菩薩は周りに。日蓮宗のは、南無妙法蓮華経が真ん中に来て四大菩薩、お釈迦さんが配置されています。いろいろなものが真ん中にくるんです。それに従って周りが配置されている。それも単に配されただけでなく、バランスと云うか見事な景観です。そこにも多様性を考えるヒントがあるのではないかと思えます。

私が考える多様性は、単に多くのものが併存している「共存」ではなく「共生」です。今回のテーマになっている「共生」は、並んでいるもの同士がwin-winの関係でシナジーを発揮する。これはこれで難しいですよ。アメリカがいま

といかんと思います。

そうなる、僧侶の妻帯にも話が行きます。これについて、全日本仏教会の前理事長の戸松さんが、若い時にタイのお坊さんとエイズ患者のホスピスを訪れた話を残されています。そのお坊さんは患者と握手する。戸松さんは、それを見てウツとなった。うつる可能性がある、俺にこの手は触れない。お寺に嫁さん子供がいる。そういう私に対して、タイのお坊さんは、当然ですよ、あなたには守るべき家族と寺がある。でもタイでは、出家とは、支えてくれる人々に命を捧げたことを意味するのです。だから妻も子供もいません。というところから戸松さんは、僧侶の独身主義には意味があったと結ばれています。

私たちが妻帯して、家族よりもダルマを大事にできるか。大事にした人が日本仏教の中でひとり、それは親鸞さんです。ジャータカの中に『ヴェツサンタラ・ジャータカ』（辛嶋静志訳注、中村元監修『ジャータカ全集10』春秋社2008所収）というのがあって、お釈迦さんは昔王様で、積迦さんは昔王様で、請われるままに布施するんです。ある人には象を。子供も嫁さんも手放す。最後はハッピーエンドで戻ってくるんで



中村元監修『ジャータカ全集10』春秋社、2008

すが、決意を試されるわけです。これは日本仏教では親鸞さんかなと。ダルマを守るために息子と縁を切った。それができるんだら結婚しても聖性は保たれる。ただそれだけの気概が我々にあるかと考えると、難しいのかなとも思ったりします。

できたら家族を持たずダルマに全てを捧げるのが望ましい。ただ、これだけ寺檀制度、世襲制度が根付いていますから、いきなりは難しいので、その間をどう埋めていくかが問題です。私は田舎のお寺の出身ですけども、田舎では仕事がないからみんな都会に出て行く。もう檀家制度は崩壊しています。努力したって経済的に食べていけない。都会の一部の裕福な方は、余裕が生まれていく。この不平等を教団としてどう考えるかですね。荒唐無稽な提案ですけども、どこかの段階で、財産は宗派で共有できないだろうか。お坊さんの派遣や指名も宗派がやる。独身であればそんなにお金は要らない。ただお寺の維持に要りますから、お葬式なりで収入を得る。でもそれを個人の財産にしない、みたいに徐々にしていけたらと考えたりします。檀家制度のないタイとかで、どんな風に経済的なものを獲得されているのかを勉強する必要があります。学ぶところがたくさんあると思います。

く新しく再生させたんですね。それが鎌倉時代で止まっているように見えてしょうがない。もう一回更新していく努力を、私たちにできているかどうか。仏教は脱皮を繰り返して今日まで生き延びているわけですから、それを止めちゃったら、私たちはA級戦犯になるかもしれない。

異端に関してひとつだけ言っておきますと、森本あんりが『異端の時代』でこんなことを書いている。現在の正統を襲ってこれになり変わろうとする異端、時満ちなば必ずや正統たらんとする異端、自ら新たな正統を担う覚悟のある異端だけが真の異端たり得る。もし現代に正統の復権があるとすれば、それは次の世代の正統を担おうとする、このような真正正銘の異端が現れることから始まる以外にはない。



森本あんり『異端の時代』岩波書店、2018

私は鎌倉時代がまさしくそうだったと思います。当時の伝統教団に対してそれぞれのお祖師さんは、新しい教えを唱えた異端です。日蓮さんが特にそうじゃないですか、迫害されて。でも異端にも嘘と本当があって、嘘の異端は単に正統に文句言うだけで、自分の意見は言えない。真正正銘の異端は、いつかは正統に成り代わってやるといいう気概のある異端。だから今正統になっ

けです。

もう一歩進んで言うと、そこからまた新たな異端が出て、今の正統を打ち破らないといけない。こういう正統異端正統のサイクルが回って、世の中は進展していくというのが森本さんの主張ですね。ですから私たちも鎌倉時代で止めるんじゃない、もう一回異端児が現れてお祖師さんたちの教えを更新していく必要があるのではないかと思います。

結論

さあ結論です。仏法僧のうち仏教を変える原動力はやはり僧です。僧が法を新たに解釈するし、僧が仏を新たに創出する母体となる。これを違った視点から言うと福田です。福田とは、そこに種をまけば芽が生える。そういう存在に私たちはな



世襲制度、檀家制度を維持せよと言うんだら、それを上回る聖性をどう担保するのかを考えないと、もう日本の宗派は危ないのではないかと思ったりします。

3. 仏（僧のリーダー的存在）

以上を踏まえて、最後に「仏」。どういう人かと言うと僧団の指導的な存在。それが僧から出るかどうか。これには我々の教祖も異端者だったことを知るべきだと思います。当時の伝統教団に対して非を唱えた人です。臨濟義玄の言葉に「仏に逢うては仏を殺せ、師に逢うては師を殺せ」とあります。けしからん奴だから殺せ、ではなく、乗り越えるということですね。

仏教に原理主義はないんです。原理主義は經典は絶対だとして、そこから一ミリも動かさない。でも私たちの大元に遡れば大乘仏教でしょう。大乘仏教をお釈迦さんは説いてない。亡くなった後、お釈迦さんが言いたかったことはこういうことなんや、ということでした。1回そこで脱皮している。さらにお祖師さんたちは、私が考える大乘仏教はこれやと、もう一回脱皮させているわけです。お祖師さんたちは文献を頼りに、今必要とする仏教ってなんやと、過去の教えを否定したんじゃない

り得ているのかどうか。水野弘元という仏教学者は福田を三つの視点から分析していて、1つは仏教の専門家、2番目は信仰の指導者、3番目は正法の所属者。



水野弘元『仏教要語の基礎知識』春秋社、新版2006

理論と実践を兼ね備えているかどうか、それから信仰の指導者という意味ではこれですね。聖性を確保できているかどうか。それから法を次の世代に継承していくことができるかどうか。法よりも家族が大事になっていたら、それができないということになります。

それからもうひとつ、寺檀制度がある程度崩壊している今において、檀家の人だけに法を説く時代はもう終わったと思います。全ての人に法を説けるかどうか。浄土宗のことを言うと、浄土宗の人に阿彌陀仏は、極楽は、と言うのは簡単なんです。説明しなくていいから。でも浄土宗を信仰していない人に言っ、阿彌陀仏なんているんですか、浄土って本当にあるんですかと言われた時にちゃんと答えられるだろうか。皆さんも皆さんが信じている宗教を、檀家の方以外に普遍性を持たせて説けるかどうか、こんなに魅力的なんだよといざ説けるかどうかが問われているのではないかと思います。御静聴ありがとうございました。

特集2

第30回WFB世界仏教徒会議 第21回WFBY世界仏教徒青年会議 第12回WBU世界仏教徒大学会議 バンコク大会報告

公益財団法人全日本仏教会（JBF）以下本会）が加盟する世界仏教徒連盟（The World Fellowship of Buddhists/以下WFB）が、10月17日（月）～21日（金）にかけて開催した「第30回WFB世界仏教徒会議・第21回WFBY世界仏教徒青年会議・第12回WBU世界仏教徒大学会議バンコク大会」に出席しました。

本会より大谷暢裕会長が、WFB最高顧問を代表して挨拶を述べました。また、戸松義晴WFB執行役員、日比野郁皓WFB人道支援委員長、東海林良昌WFB副事務総長と事務総局から国際部2名が参加しました。

WFBは、世界の仏教徒の交流友好親善と、仏陀の崇高な教義の普及と世界平和への貢献を目的に、1950（昭和25）年にスリランカで設立され、本会はわが国唯一のセンターとして加盟しています。設立以来、議決機関である世界仏教徒会議が約2年に一度開催され、各種の活動報告がされるとともに、組織の見直しや将来の活動計画が決定

されています。

日本では、1952（昭和27）年の第2回、1978（昭和53）年の第12回、2008（平成20）年の第24回、2018（平成30）年の第29回と、計4回の世界仏教徒会議が開催されています。

【開催概要】

- 第30回WFB世界仏教徒会議
- 第21回WFBY世界仏教徒青年会議
- 第12回WBU世界仏教徒大学会議
- バンコク大会

・会場

- ①世界仏教徒連盟本部
（タイ・バンコク市）
- ②マハーマクット仏教大学
（タイ・ナコーンパトム市）



・開催日

2022（令和4）年10月17日（月）～21日（金）

・内容

- WFB・WFBY・WBU各種会議
- オープニングセレモニー
- 常設委員会
- 閉会式典
- ・参加者 約300名
- ・ロゴ/テーマ
「Buddhism in the Time of Crisis（危機の時）」

代にある仏教）

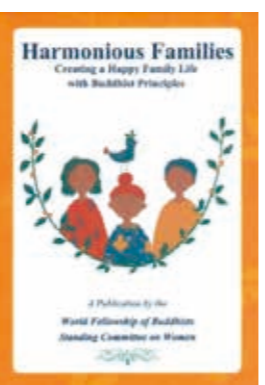


【各種会議・委員会（17日～21日）】

執行役員会議と総会で提起された問題は、セッション別の常設委員会で様々な意見交換がなされました。

特にWFBには、女性委員会が設置されており、女性や子供の健康と安全、立場について問題を解決し、仏教に基づいた教育の強化と社会活動への女性参画を奨励するための冊子を発行するなど、活発に活動しています。

それぞれの委員会でもとめられた目標や今後の取り組みは総会にて披露され、次回大会に成果報



ルセンターは、宣言に基づいた活動を積極的に取り組んでいきます。

同時に開催された世界仏教徒大学会議では、SDGsの推進に注力しており、目標に向けたプロセスをア Nil WBU学長が発表しました。



総会には、大谷暢裕会長も参加し、パリ語による三帰と会議の成功を念じました。

また、今大会の重要議案の一つとして、任期満了による全役員の総選挙が行われました。長く会長を務めたバン・ワナメッティ氏は、今大会をもって勇退され、それを受けたWFBと執行役員は、現事務総長のパロップ・タイアリー氏を推薦し、満場一致で新会長に任命しました。

【オープニングセレモニー（19日）】

中日の19日に、オープニングセレモニーが開催され、タイ王国最高総教主であるソムデット・プラ・アリアウオンサカタヤン法王と本大会会場主であるブラ・テップ・ヴァジャラメッティ・マハーマクット仏教大学長が来賓として臨席されました。セレモニー冒頭、法王に対し総供養の儀式が行われました。

そして、タイ国王・首相・国会議長の祝辞が代読され、大谷会長がWFBと全ての仏教徒を代表して、御礼と挨拶を述べました。挨拶では、ロシアによるウクライナ侵攻や民族・宗教を発端とした争いに言及し、「武力」と「暴力」では憎悪から抜け出すことは出来ず、仏陀の教えである「智慧」と「慈悲」に基づく正しいこそが全ての欲望から解放される手段であると強く訴え、仏教徒の益々の仏道精進への思いを述べられました。





終盤では法王が、WFB創立70周年記念と今大会の盛會に祝辞を述べられ、WFBと各国リージョナルセンターの活動により、仏陀の教えがさらに弘められ、世界が平和で溢れることを念願されました。

がより良い運営・活動がされるように尽力することである」と述べられ、積極的に本部へ意見を寄せるよう呼びかけました。また、新事務総長にモンティアン・タナナート氏が任命されました。各国から参加した役員や代表者は、WFBの理念を基に活動することを確認し、帰国の途に就きました。

【議事録】

1. 開会法要
2. 会長挨拶 (代読)
3. 議題提案
 - ↓ 承認
4. 第29回WFB総会議事録
 - ↓ 承認
5. 収支報告・監査報告
 - ↓ 承認
6. WFBリージョナルセンター新規加盟(6団体)
 - ① Buddha Jaksu Vijjalai Foundation (Mahayana Monastery): Nakhon Pathom, THAILAND
 - ② Buddhist Relationship Association: Bangkok, THAILAND
 - ③ Macau Buddhism Charity Association: Macau, CHINA
 - ④ Malasekera Foundation: SRI LANKA
 - ⑤ Foundation of Pali and Dhamma Graduates Association of Thailand under the Royal Patronage of Her Royal Highness Princess Mother: THAILAND
 - ⑥ Yayasan Pendidikan Buddha Dharma Kepulauan Riau Indonesia: INDONESIA
 - ⑦ 選挙基準と手順
 - ↓ 承認
 - ⑧ 第30回WFB総会の役員配置
 - 運営委員会 委員長並びにメンバー
 - 起草委員会 委員長並びにメンバー
 - 審査員
 - ↓ 任命
 - ⑨ 執行役員選挙
 - ・新会長選出について
 - ↓ 無投票による選出を提案
 - パロップ・タイアリー新会長就任
 - ・副会長・執行役員・常設委員会・WBU役員について
 - ↓ 無投票による会長任命
 - 小林正道 副会長
 - 戸松義晴 執行役員
 - 東海林良昌 人道支援委員長
 - 日比野郁皓 WBU役員
 - 岡野正純 WBU役員
 - ※日本センターのみ抜粋
 - 10. その他
 - モンティアン・タナナート新事務総長就任
 - 以上

法王ご退場の際には大谷会長と歓談され、それぞれの立場で仏陀の教えを実践し世界平和へ貢献することを約束し握手を交わされました。

式典後、場所をマハーマクット仏教大学内の寺院に移し、全員の記念撮影と閉会法要を厳修。バンコク大会は盛會のうちに終了しました。

大会最終日に開催された新役員による執行役員会議では、パロップ新会長が「WFB会長の役割は、本部から指示を出し教示するだけでなく、各役員・各国リージョナルセンターの意見や問題を集約・監査し、世界平和のためにWFBと全ての仏教徒

WFB2022バンコク宣言

―危機の時代にある仏教―

私たちは、「危機の時代にある仏教」をテーマとして2022年10月19日から20日、タイ・バンコクのマハーマクット仏教大学で開催された第30回WFB世界仏教徒会議の参加者として、迫害、人権と自由の侵害、そして互いの不調和が人類の幸福を損失させることの無いよう、以下を決定しここに宣言します。

- 1 私たちの人間関係、国際関係、環境への配慮において、慈悲と智慧を実践する。
- 2 日常生活において多様性と多文化主義を尊重する。
- 3 国連が掲げる17のSDGs (持続可能な開発目標) について支援し、特に再生可能エネルギーの使用と子供たちの教育、女性のエンパワーメントを促進する。
- 4 仏教遺産の保存活動に参加し、遺産教育を促進する。
- 5 相互理解と世界平和を促進するため、諸宗教間の対話をさらに深める。
- 6 母なる大地(地球)への責任を果たすため、五戒を実践する。
- 7 生命と財産の尊厳を守り、調和のとれた平和な世界の基礎を築くために、仏陀の教えをさらに弘める。

新年お慶び申し上げます

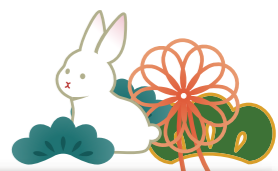


高野山真言宗
総本山金剛峯寺

管長 長谷部真道
宗務総長 今川泰伸
執行局長 近藤本淳
総務部長 加藤栄俊
法務部長 桐生俊雅
執行局長 竹井成範
執行局長 津田哲哉
執行局長 藪邦彦
内務局長 岸本優宏
信託局長 藤本善光
社会人権局長 後藤友栄
国際局長代理 立葉了禅
教学部長 大森照龍
重宝館館長 仁賀大善
奥之院維那 目黒寿典
伽藍維那 永崎亮寛
高野山宗別院主監 柏田良辯
高野山宗別院主監 永崎亮寛

〒648 0294 和歌山県伊都郡高野町高野山一三二
TEL 0736(五六一)2011
FAX 0736(五六)4640

新年お慶び申し上げます



曹洞宗宗務庁

管長 石附周行
宗務総長 服部秀世
参議 熊谷紘全
参議 渡邊義弘
人事部長 渡部卓史
総務部長 松原道一
教化部長 深川典雄
教学部長 龍谷顯孝
出版部長 倉内泰雄
財政部長 近藤龍法
伝道部長 戸田光隆

東京都港区芝二一五一
〒105 8544 03(三四五)5411
https://www.sotozen-net.or.jp/

臨濟宗妙心寺派宗務本所

管長 小倉宗俊
宗務総長 野口善敬
総務部長 堀尾行覚
花園会館長(兼) 堀尾行覚
教学部長 足立宜了
財務部長 真常紹天
本部会長 小林秀嶽
花園会 小林秀嶽
法務部長 吹田良忠

〒616 8034 京都市右京区花園木辻北町一
TEL 075(四六三)3111
FAX 075(三五)1371
https://www.nyoshinji.or.jp/

浄土真宗本願寺派

総長 石上智康
総務 池田行信
総務 武野公昭
副総務 日谷照應
副総務 弘中貴之
副総務 荻野昭裕
副総務 萩野昭裕
宗務組織機構改革推進本部長 霍野廣紹
親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗八百年法要庶務本部長 玉井昭英
同総務本部長 大河内隆之
同教化本部長 野瀬善隆
同警備・救護本部長 藤山憲照
同情報メディアセンター本部長 笠置信行

〒600 8501 京都市下京区堀川通花屋町下る
TEL 075(三七)5181
FAX 075(三五)1371
https://www.honganji.or.jp/

天台宗

天台座主 大樹孝啓
宗務総長 阿部昌宏
総務部長 小林祖承
参事部長 甘井亮淳
参事部長 船戸俊宏
参事部長 岩田真亮
参事部長 柴田真成
参事部長 竹内純照

〒520 0113 大津市坂本四丁目六番二号
TEL 077(五七七)0022
FAX 077(五七九)2516
https://www.tendai.or.jp/

真宗大谷派

宗務総長 木越涉
参事部長 酒井良
参事部長 古賀堅志
参事部長 尾畑英和
参事部長 那須信純
参事部長 長峯顕教

〒600 8505 京都市下京区烏丸通七条上る
TEL 075(三七)9181
https://www.higashihonganji.or.jp/

〈慶讃テーマ〉
南無阿弥陀仏
人と生まれたことの
意味をたずねていこう

真言宗智山派宗務庁
総本山智積院

管長 布施淨慧
宗務総長 芙蓉良英
総務部長 三神栄法
教学部長 山川弘巳
教化部長 服部融亮
法務部長 大森真弘
財務部長 日下敬啓
宗務出張所長 倉田隆伸

〒605 0951 京都市東山区東大路七条下路
TEL 075(五四)5361
https://chisan.or.jp/

浄土宗

「浄土宗二十一世紀誓願書」
愚者の自覚を
家庭にみ仏の光を
社会に慈しみを
世界に共生を

浄土門主 伊藤唯眞
宗務総長 川中光教
宗務役員 名越邦博
宗務役員 光岡素生
宗務役員 宮林雄彦
宗務役員 杉森隆志
職員一同

浄土宗宗務庁
〒605 0062 京都市東山区林下町四〇〇、八
TEL 075(五二五)2200
FAX 075(五三一)5105
〒105 0011 東京都港区芝公園四、七、四
TEL 03(三四三六)3351
FAX 03(三四三四)0744
https://jodo.or.jp/

真言宗豊山派宗務所

管長 浅井侃雄
宗務総長 鈴木常英
総務部長 岩脇彰信
教化部長 小島恵真
財務部長 細沼秀行
教務部長 氏家拓譽
教化センター長 小林政彦
真言宗豊山派総合研究院院長 高橋尚夫

〒112 0012 東京都文京区大塚五、四〇、八
TEL 03(三九四)0639
http://www.buzan.or.jp/

日蓮宗

管長 菅野日彰
宗務総長 田中恵紳
伝道局長 柳下俊明
総務局長 光岡潮慶
伝道部長 藤田尚哉
教務部長 川久保光隆
総務部長 畑栄明
財務部長 山田光映
宗務総長室長 鶏内泰寛
日蓮宗現代宗教研究所長 赤堀正明
参事 渡邊義生
参事 田中智海
日蓮宗新聞社長 安芸栄祥

日蓮宗宗務院
〒146 8544 東京都大田区池上二、三二、一五
TEL 03(三七五)7181
FAX 03(三七五)7186
https://www.nichiren.or.jp/

新年お慶び申し上げます



融通念佛宗 総本山大念佛寺

管 長 吉村 暲英

宗務総長 田中 瑞修

寺務総長 田中 瑞修

教学部長 吉井 良久

法務部長 吉井 良久

庶務部長 好野 良博

會計部長 佐々木 智祥

〒547 0045 大阪市平野区平野上町一七二六
TEL 〇六(六七九)〇〇二六
FAX 〇六(六七九)三〇五〇
<https://www.dainenbutsuji.com>

法華宗 (本門流)

管 長 村上 法照

宗務総長 金子 嘉純

教学部長 小林 慶明


財務部長 明石 清澄

修験道部長 秋田 幸輝

庶務部長 加藤 明信

録 事 三島 宗覚

〒520 0036 滋賀県大津市園城寺町二四六
TEL 〇七七(五二二)五一一〇
FAX 〇七七(五二二)五一二八


一天四海皆娑妙法 お題目総下種運動
咲かそう、いのち

〒103 0013 東京都中央区日本橋人形町二一九一
TEL 〇三(五六一四)三〇五五
FAX 〇三(五六一四)三〇五六
<http://www.hokkeshu.or.jp>

法華宗 (陣門流)

管 長 門谷 日悠

宗務総長 西山 英仁

総務部長 牧野 秀成

企画部長 金原 孝宜

財務部長 西山 聡達

教学部長 布施 義高

教化部長 松吉 慶憲

宗務参事 田中 隆寛

〒170 0002 東京都豊島区葉巻五三五六
TEL 〇三(三三九)八七二九〇
FAX 〇三(三五七六)〇一二一

顕本法華宗

管 長 大川 日仰

宗務総長 河野 時巧

宗務次長 小松 正学

財務部長 吉田 諦規

布教部長 小川 正展

庶務部長 金坂 正道

社会部長 森田 修應

教務部長 二宮 無尽

〒606 0015 京都市左京区岩倉幡枝町九十一
TEL 〇七五(七九一)七二七一
FAX 〇七五(七九一)七二六七

一般財団法人 埼玉県佛教会

会 長 倉持 秀裕

副会長 加藤 玄静

同 条原 恒久

専務理事 深谷 雅良

常務理事 山口 正純

同 河野 亮玄

同 馬場 知行

同 井倉 賢照

事務局長 金子 嘉広

〒330 0063 さいたま市浦和区高砂四一三二一八
TEL 〇四八(八六二)二一三八
FAX 〇四八(八六四)六六四九
<http://saibutunet/>

新年お慶び申し上げます



天台真盛宗 総本山西教寺

貫 首 武田 圓寵

宗務総長 前阪 良憲

社会部長 蜂谷 眞勝

庶務部長 色井 秀宰

教学部長 石田 義光

財務部長 大上 良雅

〒520 0113 滋賀県大津市坂本五・三一
TEL 〇七七(五七八)〇〇一三
FAX 〇七七(五七八)三四一八

天台寺門宗

管 長 村上 法照

宗務総長 金子 嘉純

教学部長 小林 慶明

財務部長 明石 清澄

修験道部長 秋田 幸輝

庶務部長 加藤 明信

録 事 三島 宗覚

〒520 0036 滋賀県大津市園城寺町二四六
TEL 〇七七(五二二)五一一〇
FAX 〇七七(五二二)五一二八

大日本佛法最初 四天王寺

管 長 加藤 公俊

副管 瀧藤 尊淳

執事 南谷 惠敬

法務部長 吉田 明良

総務部長 新井 順證

財務部長 宮崎 光映

財務部長 山岡 武明

学校教育部長 坂本 峰徳

学校教育部長 森田 惇朗

社会福祉部長 塚原 昭應

社会福祉部長 廣瀬 善重

〒543 0051 大阪府大阪市天王寺区四天王寺一丁目十一番十八号
TEL 〇六(六七七)〇〇六六
FAX 〇六(六七七)四九二一
<https://www.shitemoji.or.jp>

総本山仁和寺 真言宗御室派

管 長 瀨川 大秀

執行 長 大林 實温

執行 長 牟田 清樹

執行 長 橋本 高諄

執行 長 本山 瑞峰

〒616 8092 京都市右京区御室大内三三
TEL 〇七五(四六一)一一五五
FAX 〇七五(四六四)四〇七〇
<https://rinaiji.jp>

真言宗醍醐派宗務本庁 総本山醍醐寺寺務所

座 長 仲田 順和

宗務総長 壁瀬 宥雅

執行 長 仲田 順英

執行 長 浦郷 宜右

執行 長 三好 祥徳

〒610 1325 京都市伏見区醍醐東大路町二二
TEL 〇七五(五七二)〇〇〇二
FAX 〇七五(五七二)〇〇〇一
<https://www.daijogij.or.jp>

新年お慶び申し上げます



**聖観音宗
浅草寺**

貫首 田中 昭徳

執事長 守山 雄順

〒111 0032 東京都台東区浅草二・三・一
TEL 03(3844)0181
FAX 03(3845)6933

**金峯山修験本宗
総本山金峯山寺**

管長 五條 良知

宗務総長 執行長 五條 永教

〒639 3115 奈良県吉野郡吉野町
TEL 0746(32)8371
FAX 0746(32)4563
https://www.kinpusen.or.jp

念法真教

総本山小倉山金剛寺
燈主 桶屋 良祐

〒538 0054 大阪市鶴見区緑三・四・二二
TEL 06(6911)2101
https://www.nenpoushinkyou.jp

孝道教団

統理 岡野 正純

〒221 0064 横浜市神奈川区鳥越三八
TEL 045(432)1201
FAX 045(434)1188
https://www.daikekai.or.jp

**真言宗須磨寺派
大本山須磨寺**

貫主 小池 弘三

〒654 0071 神戸市須磨区須磨寺町四・六・八
TEL 078(731)0416

**真言宗大覚寺派
大本山大覚寺**

大覚寺寺号勅許(開創)
一一五〇年記念法会令和八年厳修

管長 尾池 泰道
宗務総長 執行長 伊勢 俊雄

〒616 8411 京都市右京区嵯峨大沢町四
TEL 075(871)0071
FAX 075(871)0055
https://www.daikekai.or.jp

**真言三寶宗
大本山清澄寺**

法主 坂本 光謙

宗務長 國定 道晃

執行長 森藤 晃正

鉄斎美術館 館長 森藤 光宣

〒665 0837 宝塚市米谷字清シ一番地
TEL 0797(86)6641
FAX 0797(86)6660
http://www.kiyoshiko.jp

**真言宗中山寺派
大本山中山寺**

長老 今井 淨圓

〒665 8588 宝塚市中山寺二丁目十一・一
TEL 0797(87)0024
FAX 0797(87)9877
https://www.nakayamadera.or.jp

東寺真言宗

宗務総長 吉村 増亮

〒601 8473 京都市南区九条町一
TEL 075(672)3717
FAX 075(666)6856

**信貴山真言宗
総本山朝護孫子寺**

管長 鈴木 貴晶

前管長 野澤 密孝

元管長 田中 貞瑞

〒636 0923 奈良県生駒郡平群町信貴山
TEL 0745(71)2277

新年お慶び申し上げます



神奈川県仏教会

会長 佐藤 功岳

副会長 井澤 孝一

同 菅原 節生

同 高作 泰寛

同 河本 岡文

事務局長 横溝 常之

〒231 0859 横浜市中区大平町九六
TEL 045(666)0166 西有寺内

愛知県仏教会

顧問 吉田 教行

顧問 舎人 経昭

会長 岩木 涼山

副会長 山田 泰信

副会長 軽部 浩史

副会長 水谷 浩志

理事長 林 大晃

〒440 0891 豊橋市関屋町二二〇 専稱寺内
TEL 0532(54)3042

京都府仏教連合会

理事長 安永 雄玄

理事 木越 雄弘

顧問 野口 善敬

顧問 芙蓉 良英

顧問 壁瀬 宥雅

顧問 橋本 一妙

顧問 竹内 文成

顧問 土江 賢祥

顧問 佐藤 泰慎

顧問 三縁 勝弘

顧問 石河 法寛

顧問 明山 年洋

顧問 井上 正顕

顧問 加藤 良邦

顧問 奥垣内 圭哲

顧問 八木 直樹

顧問 赤塚 高明

顧問 橋本 周現

顧問 山本 正廣

顧問 稲岡 正純

顧問 西山 惠龍

顧問 柏田 良辯

顧問 佐野 充照

顧問 石津 幸次

出羽 宏信

〒600 8501 京都府京都市下京区堀川通
花屋町下ル 西本願寺内
TEL 075(375)5181
FAX 075(375)5100

**公益財団法人
仏教伝道協会**

会長 木村 清孝

理事長 桂 紹隆

常務理事 青木 晴美

理事 門脇 邦彦

理事 野村 邦武

理事 沼田 恵明

理事 生田 忠士

理事 塩入 亮乗

理事 中野 東禅

理事 松村 智司

〒108 0014 東京都港区芝四丁目三・一四
TEL 03(3455)5851
FAX 03(3798)2758
https://www.bdk.or.jp

**公益社団法人
日本仏教保育協会**

理事長 高山 久照

副理事長 高輪 真澄

副理事長 高田 道雄

副理事長 日野 昭文

副理事長 野村 定弘

伝えよう
生命の尊さ
ほとけの心

0仏保

〒105 0011 東京都港区芝公園四・七・四
TEL 03(343)7475
FAX 03(343)1519 明照会館二階

新年お慶び申し上げます



青森県仏教会

会長 築田 成義
 監事 葛原 隆男
 監事 和泉 順生
 事務局 中谷 正幸
 事務局 若狭谷 良行
 会計 鷹背 観道

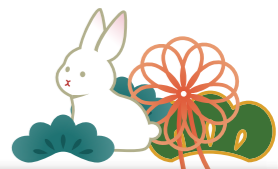
〒039 3212 青森県上北郡六ヶ所村尾駮字野附三九四
 TEL 〇一七五(七二)二一六八
 FAX 〇一七五(七二)二一九四

北海道仏教会連盟

会長 沙々木 学海

〒060 0003 北海道札幌市中央区北三条西十九丁目二-北海道教区事務所内
 TEL 〇一(六一)九六二三
 FAX 〇一(六一)〇九一四

新年お慶び申し上げます



真宗高田派 本山専修寺

宗務総長 増田 修誠
 総務 藤谷 知良
 総務 弓削 弘胤

〒514 0114 三重県津市(身田町二八一九番地)
 TEL 〇五九(二三)四一七一
 FAX 〇五九(二三)一四一四

西山浄土宗 総本山光明寺

法主 沢田 教英
 宗務総長 土江 賢祥
 執事 長 土江 賢祥

〒617 0811 京都府長岡京市粟生西条の内二六番地の一
 TEL 〇七五(九五五)〇〇〇二
 FAX 〇七五(九五三)二二六四
 東京別院 東京都町田市小山ヶ丘一三二-1
 〒194 0215 東京都町田市小山ヶ丘一三二-1
 TEL 〇四二(七九四)八五八五
 https://www.komyo-ji.or.jp/

茨城県仏教会

会長 岸野 教司
 副会長 黒澤 彰哉
 副会長 徳永 光由
 副会長 奥田 俊裕
 事務局長 倉持 達哉

〒306 0642 茨城県坂東市長谷一八五〇-1 長谷寺内
 TEL 〇二九七(三六)八二五五
 FAX 〇二九七(三六)八二五五

福島県仏教会

会長 大野 順道
 専務理事 阿部 泰志
 事務局 網代 智剛
 広報 佐藤 智香
 会計 大野 泰明
 庶務 横田 弘明

〒960 8116 福島県福島市春日町一四-五二 慈恩寺内
 TEL 〇二四(五三四)五八九一

臨済宗南禅寺派 大本山南禅寺

宗務総長 増田 修誠
 総務 藤谷 知良
 総務 弓削 弘胤

〒606 8435 京都市左京区南禅寺福地町八六
 TEL 〇七五(七七)〇三六五
 FAX 〇七五(七七)六九八九

時宗 臨済宗円覚寺派 大本山円覚寺

法主 東山 心徹

〒251 0001 神奈川県横浜市西富一八一-1
 TEL 〇四六六(二三)七二七六

山梨県仏教会

会長 近藤 英夫
 副会長 鈴木 哲
 顧問 伊丹 信匡
 顧問 松永 直樹

〒409 1303 山梨県甲州市勝沼町小俣手一〇四六
 TEL 〇五五三(四四)二七一九
 FAX 〇五五三(四四)二七一九

東京都仏教連合会

会長 山田 一眞
 理事長 新美 昌道

〒111 0036 東京都台東区松が谷二十九-七 涼源寺内
 TEL 〇三(三八四四)九五九七
 FAX 〇三(三八四四)三一七七

臨済宗相国寺派 大本山相国寺

管長 有馬 頼底
 宗務総長 佐分 宗順

〒602 0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町七〇一番地
 TEL 〇七五(二三)〇三〇一
 FAX 〇七五(一一)三五九一
 https://www.shokoku-ji.jp/

臨済宗円覚寺派 大本山円覚寺

管長 横田 南嶺
 宗務総長 永田 正和

〒247 0062 鎌倉市山ノ内四〇九
 TEL 〇四六七(二二)〇四七八
 FAX 〇四六七(二三)三〇二七
 http://www.engakuji.or.jp/

静岡県仏教会

会長 川村 歓亮

〒411 0803 静岡県三島市大場三六〇
 TEL 〇五五(九七七)三八八一

岐阜県仏教会

顧問 寺町 研山
 会長 杉山 令憲
 理事長 岩水 龍峰

〒500 8882 岐阜県岐阜市西野町三丁目一番地 岐阜西別院康楽内
 TEL 〇五八(二六六)七八〇三
 FAX 〇五八(二一四)四〇八一

法華宗(真門流)

管長 上田 日猷
 宗務総長 堀内 浩善
 総務部長 坂本 法保
 教学部長 峰尾 泉栄
 教化部長 舟積 法宏
 社会部長 水野 智悠
 財務部長 掘 雅博

〒602 8447 京都市上京区智恵光院通五辻上る 紋屋町三三〇
 TEL 〇七五(四四)五七六二
 FAX 〇七五(四四)五六六六
 http://www.hokkeshu.jp/

黄檗宗 大本山萬福寺

管長 近藤 博道
 宗務総長 荒木 将旭

〒611 0011 京都府宇治市五ヶ庄三番割三四
 TEL 〇七七四(三二)三九〇〇
 FAX 〇七七四(三二)六〇八八

大阪府佛教会

会長 村山 廣甫
 副会長 森 快隆
 同 藪木 恵照
 同 瀧藤 尊淳
 同 清澤 悟
 同 丹農 秀知
 同 立石 泰教
 事務局 二上 寛弘

〒552 0021 大阪府港区築港一十三三釋迦院内
 TEL 〇六(六五七)五七一〇

一般財団法人 京都仏教会

理事長 有馬 頼底
 常務理事 宮城 泰年
 同 坂口 博翁
 同 佐分 宗順
 事務局 長澤 香静

〒602 0898 京都市上京区今出川通烏丸東入相国寺門前町六三六一
 TEL 〇七五(二三)六九七五
 FAX 〇七五(二三)六九七六

真言律宗 総本山西大寺

真言律宗管長 松村 隆誉
 真言律宗宗務長 辻村 泰範
 総本山西大寺 執事 長

〒631 0825 奈良市西大寺芝町一丁目一〇五
 TEL 〇七四(四五)四七〇〇
 FAX 〇七四(四五)四七二〇

本門佛立宗 本山宥清寺

講有 高須 日良
 宗務総長 新井 日現

本山宥清寺 京都市上京区一条通七本松西入る
 〒602 8336 京都市上京区一条通七本松西入る
 滝ヶ鼻町一〇〇五番地一
 TEL 〇七五(四六三)四六二〇(代)
 FAX 〇七五(四六三)四六五一
 本門佛立宗 宗務本庁 京都市上京区御前通一条上る
 〒602 8377 京都市上京区御前通一条上る
 東堅町一〇〇番地
 TEL 〇七五(四六一)一五六六(代)
 FAX 〇七五(四六四)五五九九
 京都佛立ミュージアム
 TEL 〇七五(二八八)三三四四
 URL https://www.hbmuseum.jp/

新年お慶び申し上げます



妙見宗
新義真言宗
真言宗善通寺派
真言宗山階派
真言宗泉涌寺派
真言宗国分寺派
真言宗犬鳴派
浄土宗西山禅林寺派
浄土宗西山深草派
真宗佛光寺派
真宗興正派
真宗木辺派
臨濟宗建長寺派
臨濟宗天龍寺派
臨濟宗東福寺派
本門法華宗
法相宗
聖徳宗
華嚴宗
律宗

岩手県仏教会
栃木県仏教会
群馬県仏教連合会
千葉県仏教会
新潟県仏教会
石川県仏教会
福井県仏教会
長野県仏教会
滋賀県仏教会
和歌山県仏教会
鳥取県仏教連合会
島根県仏教会
(一社)徳島県仏教会
香川県仏教会
高知県仏教会
福岡県仏教連合会
長崎県仏教連合会
熊本県仏教会
宮崎県仏教連合会
沖縄県仏教会
(公財)国際仏教興隆協会
東京ブレイストクラブ



新年お慶び申し上げます



兵庫県佛教会
会 長 矢坂 誠徳
〒652-0872 神戸市兵庫区吉田町
三丁目五・七 瑞龍寺内
TEL 〇七八(六八一)一八四二

岡山県佛教会
会 長 本山 瑞峰
(倉敷市 般若院)
副会長 嵯峨山智昭
(岡山市 徳善寺)
同 石原 伸俊
(倉敷市 聖蓮寺)
事務局 守安 秀行
(倉敷市 西方寺)
事務局(西方寺)
〒710-0141 岡山県倉敷市串田五一
TEL 〇八六(四八五)〇三二七
FAX 〇八六(四八五)〇三二七

愛媛県仏教会
会 長 山崎 忠司
副会長 香川 龍玄
副会長 東影 大地
監事 東山 泰道
監事 二宮 單
事務局長 櫻井 良之
書記 吉川 雅之
顧問 齋藤 俊宏
顧問 越智 友啓
顧問 仁田 喜潤
〒796-0421 愛媛県西宇和郡伊方町九町
四・七・二五 天徳寺内
TEL 〇八九四(三九)〇〇五〇
FAX 〇八九四(三九)〇〇五〇

公益社団法人
全日本仏教
婦人連盟
会 長 東伏見具子
副会長 加用 稔子
同 吉田 真理
理事長 花岡真理子
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷
四・五・十一・二〇五
TEL 〇三(五七七二)〇六七七
FAX 〇三(六四三三)〇一八四
https://jwvf.jp
Email:info@jwvf.jp

全日本仏教青年会
WFBY 世界仏教徒青年連盟日本センター
事務局 埼玉県新座市馬場一・九・三 蓮光寺
〒352-0016
TEL 〇四八(四七八)五六七一
FAX 〇三(六六八五)三三八六
E-mail info@jybne.jp
URL https://www.jybne.jp

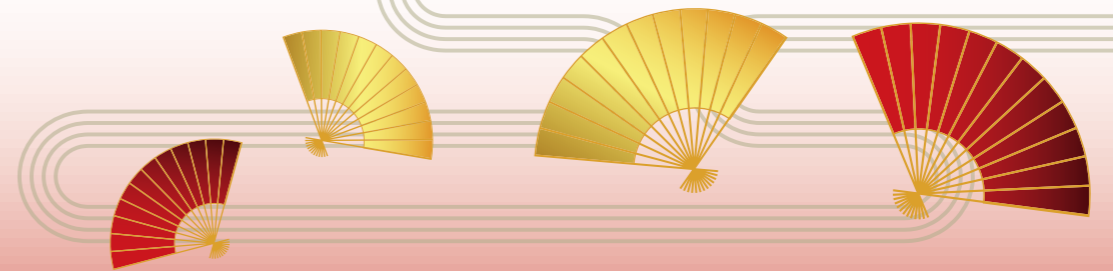
理事長 西郊 良貴
事務局長 上田 昭憲

一般社団法人
日本仏教鑽仰会
代表理事 中山 齊栄
〒174-0041 東京都板橋区舟渡四・十五・一
TEL 〇三(三九六七)三二八八
https://bukyo-seminar.jp
info@bukyo-seminar.jp

一般社団法人
仏教情報センター
理事長 白川 淳敬
副理事長 平井 良昌
副理事長 本間 孝継
〒113-0033 東京都文京区本郷一・四・六・二〇二
TEL 〇三(三八一三)六五七七
FAX 〇三(三八一三)六七九四

日韓仏教交流協議会
会 長 藤田 隆乗
副会長 柴田 哲彦
理事長 西郊 良光
事務総長 佐藤 隆一
〒210-8521 神奈川県川崎市川崎区
大師町四・四八
TEL 〇四(二六六)三四二〇
FAX 〇四(二七七)八一六三

賛助会員
【特別会員】
大本山東福寺 原田 融道
蓮華院誕生寺 川原 英照
尾道仏教会 大塚 敏樹
實相山中央寺 熊谷 忠興
信州善光寺 若麻績 享則
一般社団法人仙台仏教会 伊達 廣三
壺阪山南法華寺 常盤 勝範
築地本願寺



新年お慶び申し上げます



【個人会員】
 社本 公一（公認会計士）
 龍泉寺 佐々木 誠宗（秋田県）
 護勢寺 菅原 公守（宮城県）
 福聚院 伊達 廣三（宮城県）
 慈願寺 池田 行信（栃木県）
 東榮寺 大森 篤史（埼玉県）
 法瑠寺 矢島 浄純（埼玉県）
 建福寺 安野 正樹（埼玉県）
 光明寺 石上 智康（千葉県）
 萬福寺 垣内 善勝（東京都）
 妙定院 小林 正道（東京都）
 浄心寺 佐藤 雅彦（東京都）
 慶安寺 深澤 信善（東京都）
 真照寺 堀井 隆川（東京都）
 廣徳寺 板坂 光明（神奈川県）
 清水寺 久喜 和裕（神奈川県）
 大蔵寺 佐藤 直道（神奈川県）
 金蔵院 眞田 有快（神奈川県）
 龍泉寺 壽山 良光（神奈川県）
 圓満寺 西郊 良光（神奈川県）
 正泉寺 野澤 隆幸（神奈川県）
 實相院 東田 樹治（神奈川県）
 重蓮寺 関崎 幸孝（新潟県）
 玄向寺 荻須 真教（長野県）
 本光寺 木村 光正（静岡県）
 観音寺 石原 峰志（愛知県）
 寂光院 松平 實胤（愛知県）

妙見閣寺 松井 英光（大阪府）
 太福寺 佐久間 大道（兵庫県）
 善隆寺 杉浦 栄俊（兵庫県）
 吉祥院 曾我 龍慶（兵庫県）
 精明寺 疋田 哲壽（鳥取県）
 定林寺 田邊 学成（岡山県）
 龍仙寺 武田 昭英（広島県）
 誓光寺 村上 智真（山口県）
 西光寺 高橋 萬法（大分県）
 渡邊 永（宮城県）
 小田 卓也（千葉県）
 鈴木 朝雄（千葉県）
 小川 昌美（東京都）
 北野 讓治（東京都）
 小林 昇（東京都）
 平 みきお（東京都）
 高田 華聖（東京都）
 鳥居 邦夫（東京都）
 村松 朱実（東京都）
 其田 寿一（東京都）
 天久保 貴（神奈川県）
 君和田 茂男（神奈川県）
 木村 匡成（神奈川県）
 佐藤 泰之（神奈川県）
 中村 美津江（神奈川県）
 松田 健（神奈川県）
 松村 一平（神奈川県）
 霧林 健（神奈川県）

山崎 忠征（和歌山県）
 安田 容造（京都府）
 山口 展弘（福岡県）
 井上 美和子（佐賀県）
 塩月 光夫（宮崎県）
 邊見 由峰（香川県）
 岩屋 毅（衆議院議員）
 枝野 幸男（衆議院議員）
 大串 博志（衆議院議員）
 金子 恭之（衆議院議員）
 上川 陽子（衆議院議員）
 小島 敏文（衆議院議員）
 佐藤 公治（衆議院議員）
 関 芳弘（衆議院議員）
 高市 早苗（衆議院議員）
 原口 一博（衆議院議員）
 平沢 勝栄（衆議院議員）
 前原 誠司（衆議院議員）
 牧島 かれん（衆議院議員）
 松本 謙公（衆議院議員）
 松本 剛明（衆議院議員）
 浅尾 慶一郎（衆議院議員）
 大塚 耕平（衆議院議員）
 片山 さつき（衆議院議員）
 片山 大介（衆議院議員）
 斎藤 嘉隆（衆議院議員）
 武見 敬三（衆議院議員）
 徳永 エリ（衆議院議員）

福山 哲郎（参議院議員）
 大野 元裕（埼玉県知事）
 早坂 義弘（東京都議会議員）
 赤松 広隆（元衆議院議員）
 荒井 聰（元衆議院議員）
 大塚 高司（元衆議院議員）
 河村 建夫（元衆議院議員）
 佐藤 ゆかり（元衆議院議員）
 野田 毅（元衆議院議員）
 松本 文明（元衆議院議員）
 三原 朝彦（元衆議院議員）
 岩城 光英（元衆議院議員）
 佐藤 泰介（元衆議院議員）
 鈴木 寛（元衆議院議員）
 鈴木 政二（元衆議院議員）
 藤谷 光信（元衆議院議員）
 二之湯 智（元衆議院議員）
 白 真勲（元衆議院議員）
 （令和4年12月12日現在）

新年お慶び申し上げます



賛助会員

【団体会員】
 京セラ株式会社（電子機器製造）
 東映株式会社（映画）
 株式会社カナメ（建築）
 大建工業株式会社 置材部（建築）
 松井建設株式会社（建設）
 住友林業ホームテック株式会社（住宅・建築事業）
 損害保険ジャパン株式会社（保険）
 大和証券株式会社 営業サポート部（ビジネスサポート）
 野村證券株式会社 金融公共公益法人部（金融）
 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 本店金融公共法人第一部（金融）
 株式会社大陸旅遊（旅行）
 株式会社ビーエス観光（旅行）
 株式会社JTB ビジネスソリューション事業本部 第一事業部（旅行）
 近畿日本ツーリスト株式会社（旅行）
 東武トップツアーズ株式会社（旅行）
 日本テンブルヴァン株式会社（寺院経営コンサルタンツ）
 株式会社阪神総商（寺院サポートコンサルティング）
 株式会社アンカレッジ（寺院運営サポート・企画）
 有限会社新宿アカウンティングオフィス（経営コンサルティング）
 株式会社社縁（社寺仏閣総合リスクコンサルタンツ）
 Sincerely株式会社（社寺仏閣の総合経営支援）
 株式会社東海大阪レンタル（イベント・レンタル）
 株式会社エコ・マイニング（環境・エネルギー）
 株式会社オメガ・コミュニケーションズ（翻訳・出版物企画・制作）
 株式会社ディー・エイ・ティ・コーポレーション（出版物企画・制作）
 新日本法規出版株式会社（法規図書出版）
 株式会社広済堂ネクスト（印刷・IT・WEB・求人広告・人材サービス）
 キヤノンプロダクションプリンティングシステムズ株式会社（印刷・機器販売）
 株式会社漫画家学会（漫画・紙芝居）
 株式会社ルンビニ（保険代理店）
 株式会社サウンドファン（音のバリアフリー開発・製造・販売）
 株式会社大塚商会（システム機器、ソフトウェアの販売）
 株式会社京念珠刑部（念珠製造・販売）
 株式会社京扇堂（扇子製造・販売）
 株式会社若林工藝舎（文化財保存修理）
 株式会社公益社（葬祭）
 株式会社タイセイ（総合商社）
 株式会社アドレスジムキ（オフィス機器販売）

株式会社いせや（石材）
 株式会社AVENUE（お寺の窓口運営・WEB制作）
 グレイトインフォメーション株式会社（システム開発運営・WEB制作）
 株式会社おぎぞ（高強度磁器食器の製造、販売）
 TERA Energy株式会社（小売電力）
 株式会社ミライコ（ユニバーサルデザイン）
 株式会社鎌倉新書（終活支援）
 株式会社ミツウロコヴェツセル（電力・エネルギー）
 株式会社オフィスワイズ（プロモーション企画）
 イワト株式会社みのはん（寺院向け業務用品通信販売）
 株式会社セルフネン（建築材料）
 株式会社ドリム（音響機器）
 株式会社ファーストコレクション（食品）
 三協美術印刷株式会社（写植・製版）
 株式会社船井総合研究所（経営コンサルティング）
 日本仏教看護・ビハラ学会
 淑徳大学アジア国際社会福祉研究所
 一般財団法人ライフプランニングセンター
 一般財団法人100万人のクラシックライフ
 一般財団法人LOS相談センター
 一般財団法人仏教検定協会
 一般社団法人PRAY for ONE
 一般社団法人良いお寺研究会
 一般社団法人Project Gamon
 全日本宗教学具協同組合
 全日本葬祭業協同組合
 岩手県葬祭業協同組合
 埼玉県葬祭業協同組合
 東京都葬祭業協同組合
 神奈川県葬祭業協同組合
 岐阜県葬祭業協同組合
 名古屋葬祭業協同組合
 愛知県葬祭業協同組合
 京都中央葬祭業協同組合
 大阪葬祭業協同組合
 福岡県葬祭業協同組合
 長崎県葬祭業協同組合
 一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会
 一般社団法人日本石材産業協会
 一般社団法人遺品整理士認定協会
 准秩父観音霊場三十四札所

第35期
第2回社会・人権審議会開催

令和4年11月18日、本会会議室よりオンライン会議を開催した。審議に先立ち尾井事務総長・尾井事務総長より挨拶。文、里雄理事長、尾井事務総長より挨拶。里雄理事長より「いのちの尊厳と人権的見地から、仏教者は死刑及び犯罪被害者支援などの課題にどのように取り組むべきか」という諮問が出された。諮問の経緯を事務総長から説明された後、第35期社会・人権審議会委員長である株橋委員に諮問が手渡され、諮問について審議された。11月25日から12月1日まで、犯罪被害者週間と定められていることから、犯罪被害者週間に合わせて全日本仏教会として、理事長談話を出すことと警察庁の犯罪被害者等施策のホームページへのリンクを本会ホームページに掲載することが決まり、理事長談話について検討された。

【概要】
日 時…令和4年11月18日 午後4時〜
場 所…全日本仏教会会議室
オンライン会議
出席者…9名(15名)
代理出席…1名

出席理事…3名
出席事務局…4名
オブザーバー…1名
○進行内容
開会
「三帰依文」唱和
里雄理事長挨拶
尾井事務総長挨拶
諮問
審議
その他
閉会

○委員出席者(順不同・敬称略)
株橋隆真(法華宗(本門流))
荷葉一浩(真宗大谷派)
我孫子高宏(曹洞宗)
宇野哲哉(浄土真宗本願寺派)
伴 乃昶(浄土宗)
赤堀正明(日蓮宗)
谷 明生(臨済宗妙心寺派)
岡田真水(学識経験者)
本郷由美子(学識経験者)
○(代理)
連 隆寿(真言宗智山派)
○(理事)
里雄康意(真宗大谷派)
嶽盛和三(担当理事 曹洞宗)
小林秀嶽(担当理事 臨済宗妙心寺派)

第35期第1回
花まつりデザイン審査会

10月26日、第35期第1回花まつりデザイン審査会が開催された。
第6回花まつりデザイン公募にて応募された132点の作品が審査され、ポスター作品大賞2点(一般・満12歳以下)、絵はがき大賞2点、佳作が決められた。
【第1回花まつりデザイン審査会】
日 時…2022(令和4)年10月26日午前10時30分〜
方 法…対面(本会会議室)
出 席…3名(審査員)
3名(オブザーバー)
4名(理事長・事務総長・広報文化部)

第35期第1回広報委員会

10月26日、第35期第1回広報委員会が開催された。
第1回では広報委員会の業務内容について委員に報告し、第35期での展望なども話された。

第37回理事会報告

11月9日に開催した第37回理事会において、協議事項として、来年度事業計画大綱(案、来年度予算大綱(案))について上程され、出席理事の賛成により賛同された。その他、報告事項として、理事長より職務執行状況と、各部の事業について報告した。

【概要】
日 時…令和4年11月9日午後3時〜
場 所…オンライン会議室(ZOOM) ミーティング使用)
出席理事…12名(20名中)
出席監事…2名(3名中)
長…里雄康意第35期理事長



第6回花まつりデザイン大賞発表!

ポスター大賞作品



「愉しげな花まつり」
鈴木里奈さん

【コメント】
作品は、様々な色のボールペンを使って描きました。花とお釈迦様は、一つ一つ細かい線や模様で表しています。

ポスター大賞作品

(満12歳以下)



「万物がうたう」
玉本千奈さん

【コメント】
み仏様の見えない「光」にたかられて、万物がおどろいたっています。すべての生きものに、幸せがそそがれる時をえがきました。

絵はがき大賞作品



「花まつりへ行こう!」
小西智子さん

【コメント】
お釈迦さまのご誕生をお祝いする行事なので明るく華やかになるよう心がけました。仏旗に使われている色を雲にして配置し、後光をドット(点々)にすることで甘露の雨を表現しました。白い象さんが誕生仏に甘茶をかけているところは、子どもから大人まで、花まつりをあまり知らない方でも分かりやすく、見ていて楽しい気持ちになって頂けたら良いなと思い、描きました。



「おはないっぱいにつつまれたおしゃかさま」
玉本琉月奈さん

【コメント】
みほとけさまは、いつもわたくしたちを可愛がってくださいませ。わたくしたちは、みほとけさまのおはなしをよくきいてよい子になります。わたくしたちは、おともだちみんなと仲良くあそびます。京都幼稚園の《子ども達の3つの誓い》です。この誓いを作品に込めました。

受賞されたみなさま、おめでとうございます。頒布・配布については巻末をご覧ください。

「救援基金」寄附者一覧

【2022(令和4)年9月1日〜
2022(令和4)年11月30日】
(時系列順・敬称略)
総本山 仁和寺
天台寺門宗
青森県仏教会
大悲王院
真宗大谷派高田教区 長命寺
真宗大谷派 稱名寺
法要寺 HYBA
願泉寺
齊藤清美
全日本仏教徒会議 会場募金
匿名希望 1件

総計 902,778円

花まつり

ポスター・絵はがき 頒布・配布開始

花まつりデザイン応募作品から作成いたしました!!

全日本仏教会では「花まつり」の社会宣揚を推進すべく花まつりポスター・絵はがきを頒布・配布しています。2022年に第6回を迎えた花まつりデザイン公募も仏教行事「花まつり」を題材に自由に描いていただきました。国内外から132点の応募をいただき、その中から大賞に選ばれた作品でポスターと絵はがきを作成いたしました。地域や寺院で開催される「花まつり」や春のイベント告知に、新春のご挨拶や感謝の気持ちを伝えるツールとしてご活用いただけると幸いです。皆さまからのご注文、お待ちしております。また、少数でもお気軽にご注文ください。



ポスター大賞
愉しげな花まつり

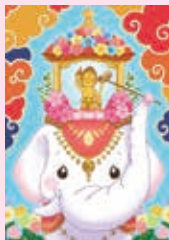


ポスター大賞(満12歳以下)
万物がうたう

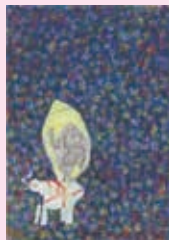


紙本著色釈迦誕生図

- ◆ポスター:
1枚50円
(※別途、送料が必要です)
- ◆サイズ:A2



「花まつりへ行こう!」



「おはなっぱいにつつまれたおしゃかさま」



「愉しげな花まつり」

絵はがき大賞とポスター大賞作品

- ◆絵はがき(3枚1組):無料
(※別途、送料が必要です)

在庫に限りがありますのでお早めの申込をお願いします。

皆さまの花まつり・春のイベントを紹介します!

本会Webサイトでは全国の「花まつり」や春のイベントを紹介したく、開催情報をお待ちしております。一人でも多くの方に「花まつり」を知っていただき、お釈迦さまのご誕生を皆さんでお祝いいたしましょう。

【お問い合わせ】

広報文化部

TEL:03-3437-9275 FAX:03-3437-3260

E-mail:kouho@jbf.ne.jp

※申込用紙は本会webサイトよりダウンロードいただけます。(http://www.jbf.ne.jp/)

全日本仏教会

検索

<http://www.jbf.ne.jp>

発行人 尾井貴童

発行所 公益財団法人 全日本仏教会

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2階

TEL:03-3437-9275 FAX:03-3437-3260

e-mail:info@jbf.ne.jp



公益財団法人
全日本仏教会
WFB (世界仏教徒連盟) 日本センター

